

海の香りを椿にのせて

～つばきの館から『おふくろの味』発信～

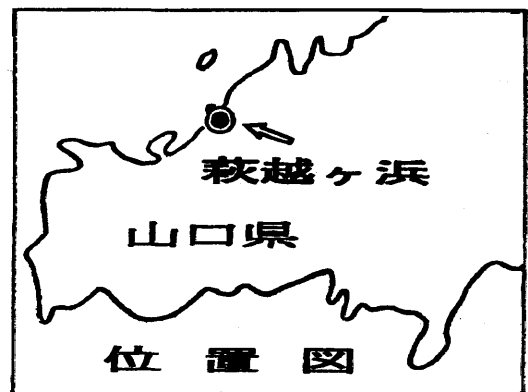
萩越ヶ浜漁協婦人部
部長 木村靖枝

1 地域と漁業の概要

私たちの住んでおります山口県萩市越ヶ浜は、萩市の中心部から北へ5kmの、日本海に囲まれた古くから漁村として栄えた地域です。

付近には2万5千本の椿群生林があり、美しい日本海と変化に富んだ海岸線に映えています。それは水産と観光の町、萩市の観光の目玉として脚光を浴びています。

主な漁業種類は、遠洋延縄、一本釣り、採貝藻、定置網で、平成8年度の水揚高は約26億円です。正組合員429名、准組合員は245名で合わせて674名の組合員で構成されています。



2 組織及び運営

萩越ヶ浜漁協婦人部は昭和29年に結成され、43年の歴史があります。現在、部員数555名で県下の漁協婦人部の中では一番大きい組織です。役員は、部長1名、副部長3名、監事2名、支部長6名と各支部の部員数に応じて班長の数を決め、前部長、元部長を顧問としておいており、20代から70代までの幅広い年齢層で構成されています。

いろいろな考えの人たちがいますので、価値感の相違等、まとめるのに苦慮していますが、小さい集団に分かれての部員同志の「対話集会」を事有るごとに開催し、納得のいくまでの話し合い、アンケートの実施など、部員相互の意志の疎通を常にはかっています。

3 実践活動課題選定の動機

活動のテーマを『誇れる越ヶ浜づくりを目指した心のふれあいと主体性を持ち、地域になくなくてはならない婦人部』と定め、主な活動内容は次のとおりです。

1. 女性の視点から活力ある漁村づくり 【自立した女性と地域を目指す】

- ・女性の経営参画：生活設計の普及と定着および営漁簿・家計簿の記帳推進（婦人学級、グループ活動）
- ・健康管理活動：検診（乳児、基本、成人病検診）、高齢者への給食サービス等
- ・美しい景観を目指した植樹活動（魚付保安林等）
- ・森や上流に住む人たちとの連携交流
- ・地域の安全を守る「婦人防火クラブ」の育成

2. 美しい越ヶ浜をつくる環境整備活動 【自然にやさしい環境づくり】

- ・海岸清掃
- ・ゴミの投げ捨での防止
- ・家庭ゴミの分別収集体制とリサイクル活動の促進
- ・合成洗剤追放、天然石けん使用推進

3. 誇れる魚のPR活動 【おいしい魚はきれいな海から】

- ・魚食普及活動、お魚料理コンクール、お魚料理教室

地域のあらゆる分野にわたって、“頼れる婦人部”として、部員全員で積極的に活動を展開しています。

活動の経済的基盤は、会費と昭和46年建設の明神池のほとりの婦人部直営の、食堂兼観光売店の収入を充てていましたが、平成6年に裏山の崩壊と建物の老朽化により閉店を余儀なくされ、活動費の捻出に頭を痛めていました。

そんな折り、萩市から「椿群生林」を会場に「全国椿サミット」の開催が伝えられ、平素から活発に活動を展開している漁協婦人部に、休息所の設置および運営についての相談が持ちかけられました。明神池ほとりの売店の移転について検討していたところであり、早速漁協にお願いしたところ、漁協内での検討委員会で、食堂兼売店を建てることになりました。検討委員会で多少の意見はありましたものの、今まで積み上げてきた『誇れる越ヶ浜づくり』の活動が評価されたのでしょう、私たちに運営を任せて頂けることになりました。

婦人部としても、相互の対話集会を再三開催して皆に相談したところ、「団体の仕事は儲からない」とか、「料理はどうするのか」「虎ヶ崎までの足は？」とか、部員同志で喧々譁々の議論の末、「運営は婦人部わたしたちの手で」という結論に達し、全員一致の理解協力を得ることができました。部員や地元の人の「婦人部直営の売店」にかける意気込み、期待の大きい事を感じ、責任の重大さをひしひしと感じました。

4 実践活動の状況および成果

建坪134㎡、総工費2640万円の計画で設計図がひかれ、平成7年2月22日に向けて直ちに着工いたしました。内装、備品については、私たちの意見を大幅に取り入れて頂きました。子供、高齢者、障害を持つ方達がゆっくりとくつろげるように、テーブルと椅子だけの食堂に畳を敷いたスペースを設けたり通路を広くしたり、バリアフリーとし、車イスの方のためにスロープもつけて頂きました。設計の変更について、積極的に意見を述べ聞き入れて頂きましたが、そのことが今、お客様にも非常に喜ばれております。

運営について大切にしようと思った事があります。それは「魚」と「椿」です。今まで日本海を泳いでいた旬の地元の食材を安く提供することと、椿の絵柄の食器で料理をお出しすることです。市街地から離れた海岸の側で、椿の絵柄のカップでおいしいコーヒーが飲める意外性、そして店頭で並べる品物も椿にこだわってみようと思いました。備品の購入は前の婦人部売店の収益で賄い、借入れすることはありませんでした。

従業員の雇用は、部員全員に申込書を配り、意欲のある方は誰でも就労できることといたしました。その結果27名の応募があり、従業員の確保も順調に進みました。

次に、新しい店舗の名前です。以前の店舗は「婦人部売店」でしたが、「椿」そして地名の「虎ヶ崎」を主題に「つばきの里」「つばき茶屋」「虎ヶ崎」「終着駅」等いろいろ候補はあがりましたが結局決まらず、候補の中から萩市長に選んで頂くことになり、「つばきの館」と命名いたしました。

オープンに向けて、あわただしい毎日でした。中でもメニュー揃えについて全員で何回も検討を重ね、他店へ試食に出掛けたり、地元で代々伝わる漁村の味、料理法の研究等新鮮な魚介藻類を美味しく食べて頂くための、味付け、盛りつけ、量、品数、器そして値段・・・職人さんのような料理は到底作れません。自分たちでできる料理、家族がおいしいと言ってくれた料理『漁村のおふくろの味』で勝負するしかない。みんなの一致した意見から「つばき定食」「さしみ定食」「わかめうどん」「わかめむすび」でスタートすることにしました。

平成7年2月23日に「全国椿サミット」が開催され、同時に「つばきの館」もオープンいたしました。

有り難い事に、オープン初日から連日、多数の観光客や地元の人で大入り満員でしたが、何せ、料理担当も接客担当も不慣れな素人集団のため、体力的にも、精神的にも疲れ果て、客入りは良いのに愚痴のでも、先行き不安なスタートでした。右往左往するばかりで能率は上がらず、注文は間違える、忘れる、順番は間違える等、苦情の連続で、従業員の人間関係にもひずみが生じようとしており、漁協に店舗を「今日は返そうか」「明日は返そうか」とやりきれない、泣きたくなるような毎日でした。

そんな中で、毎日閉店後に反省会を開き、漁協や部員、地元の人々の期待を裏切らないためお互いに励まし合い、ウィークデーは出勤する人数を少なくしてローテーションを組み替え、身体と心を休める工夫をし、就業の中から喜びを見つけ出す工夫と、“プラス思考”に物事を考えるよう皆で約束しました。また訪れる方からの意見を聞き、今後の運営や料理に活かして行ければと、アンケートをお願いしたところ、励まし、お礼、景色の素晴らしさなどのほかに、料理に対する要望他「食堂から見える島々の名前を示してほしい」「BGMを流してほしい」「駐車場のスペースを広げてほしい」など大変貴重なアドバイスを頂くことになり、従業員全員で一つ一つ検討し改善に取り組むことにいたしました。

まずメニューの変更です。「つばき定食」のサザエ飯が大変好評であったので、「さしみ定食」にサザエ飯をセットすることにしました。味付けも、塩加減に気を使っております。どうしても漁村の料理は「味が濃く、塩辛い」との指摘があったからです。

このようにお客様からの様々な意見を頂きながら、運営に役立たせて頂いております。経理については最初は大福帳式でしたが、商業簿記を勉強してからは「複式簿記」を採用し、決算書の作成、仕入価格の交渉、商品の在庫管理等、次第に運営全体が分析出来るようになりました。また、時間があれば海に出て、ヒジキ、天草、ヨメガカサを採り食材として提供しております。報酬は充分とは言えませんが、皆明るく生き生きと働いております。

初年度は食器類等の購入で、若干の赤字を計上しましたが、二年目からは少しですが黒字が出るようになりました。そして漁協への月15万円の借料も滞りなく支払っております。「これで経済的にも、経営的にも婦人部自身の手で自立出来る道ができた」と、ホッとすると同時に“まだまだこれから”と、年中無休で頑張っているところです。

5 波及効果

九州や県内の新聞広告、週刊誌のPR記事や口コミ等で、で萩市近郊はもちろん、県内各地・九州や広島方面からの来客も増え、嬉しいことに再来の方や予約も入るようになりました。来客数も平成7年度は24,738人、平成8年度は34,359人、平成9年度は11月末で30,611人と、お蔭様で順調に増えてまいりました。

「つばきの館」の具体的な波及効果をあげてみますと、

○地元魚介藻類の利用

数量不足、規格が不揃い、販路が不明、また早い時期に売買したいとの理由で市場に出せない魚や、自家栽培品などの活用。

○萩市の観光の拠点としての「椿群生林」の宣伝、観光客への誇れる魚料理の提供。

○魚の消費拡大（消費者に新鮮な魚の美味しさを再認識・PRできた）

○「おいしい魚はきれいな海から」と、部員・地域への認識が高まり、農村部の理解協力が得られた。

○植樹をとおして、海の世界PRができた。

○他団体との交流の場として、情報の発進・受信の基地となってきた。

○活動費の捻出により、自立した婦人部として幅広い活動への取り組みができた。

○「つばきの館」を通じたわたしたちの活動への視察交流を目的とした、他団体や他県からの来店も増えてきた。

まさに、「つばきの館」は、“交流の館”として、部員555名の熱い想いと活動の経済的基盤を盤石なものとし、部員の就労の場の提供、それに伴う報酬、地元業者の利用、消費者との交流、海岸清掃、環境整備等、景観形成の拠点として、設置当初の目的に向けて着実に前進しております。

6 今後の計画

オープン当初もってございました「やっへ行けるのだろうか」という不安は跡形も無く消え失せ、毎日晴天を祈りながら店を開け、お客様の喜んだ顔を見るのが楽しみです。

今後の計画は、

◎「顧客名簿」を作成し、旬の魚料理の紹介や、椿の開花状況、イベントの案内等、きめ細かな情報の提供を行っていきたいと思っております。

◎「誇れる越ヶ浜づくり」の集大成として、「椿資料館」の建設。

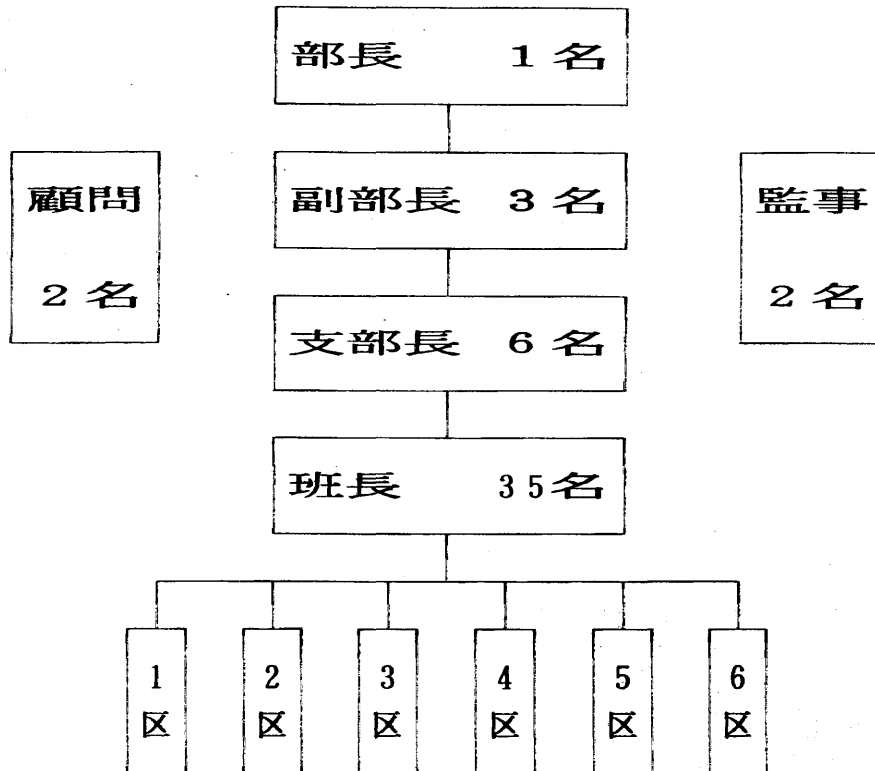
◎キスゲの花の植栽等、一年中お客様に喜んで頂ける景観づくりに向けて。

新たなる取り組みが始まっております。

オープンから3年目を迎えた今、「つばきの館」を漁村の食文化の交流の拠点として、“海の香りを椿にのせて”これからも萩越ヶ浜から全国に向けて発信し続けていきたいと思っております。

萩越ヶ浜漁協婦人部 組織図

(部員数：555名)

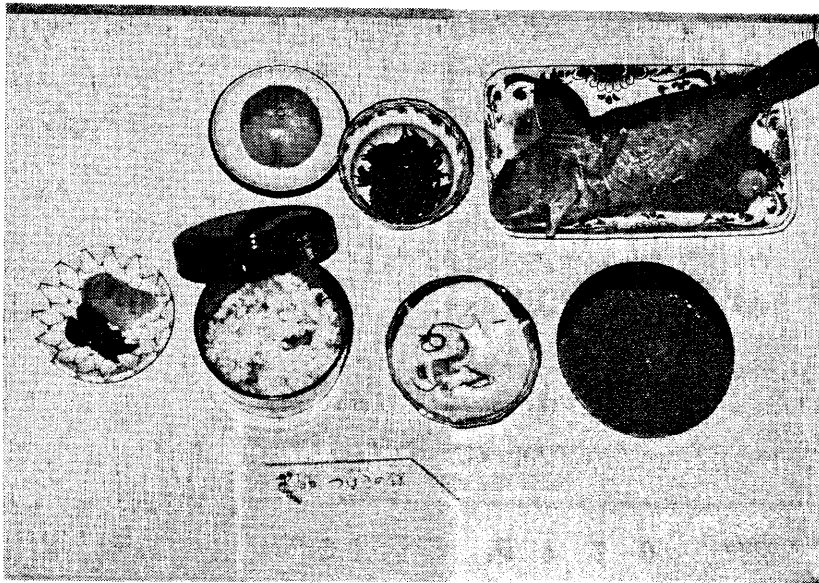


萩越ヶ浜漁協の概況

| | |
|---------|-------------------------|
| 組合員数 | 674名 (正429名) (准245名) |
| 漁業種類 | 遠洋延縄・一本釣り 採貝採藻・定置網 |
| 水揚高 | 25億5千万円 |
| 漁協貯金 | 29億6千万円 |
| 購買品供給高 | 3億6千万円 |
| 長期共済保有高 | 64億6千万円 |



～「つばきの館」前にて～



～大好評！

「つばき定食」～



～天然石けん推進キャンペーン 実施中！～